

第9回国連ウェーサクの日国際仏教徒会議

バンコク宣言

仏陀の成道 2600 年記念ブッダジャヤンティ祭

2012 年（仏暦 2555 年）5 月 31 日～6 月 2 日

アユタヤ県ワンノイ郡マハチュラロンコーンラージャウィタヤライ大学メインキャンパス

バンコク国連会議センター

およびナコンパトム県ブッダモントン

1999年12月15日に開催された第54回国連総会において、34カ国の代表から共同提議された第174議題として、5月の満月の日に当たるウェーサクの日を国際的に認知し、国連本部および地域事務所においてこれを祝うという議題が採択された。この決定に従い、2000年より国連ウェーサクの日祝賀式典が仏教諸宗派の支援により始まった。今年は2012年5月31日から6月2日まで世界85の国々と地域からの参加者が、仏陀の成道2600年、タイ国王妃陛下の80歳の誕生日、およびワチラロンコーン皇太子殿下の60歳の誕生日をお祝いするため、そして国際仏教大学連盟(IABU)の第2回会議を行うために、タイ仏教サンガ最高評議会の指導の下、タイ王国政府が後援し、タイ国マハチュラロンコーンラージャウィタヤライ大学が主催した国連ウェーサクの日祝賀式典に集まった。

アユタヤ県ワンノイ郡のマハチュラロンコーンラージャウィタヤライ大学本校キャンパス、バンコクの国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)、およびナコンパトム県ブッダモントンにおけるそれぞれの会議において、我々は「人類の幸福のための仏陀の成道」という命題について深く話し合い、あらゆる仏教部派の組織と組織の間の、そして個人と個人の間の相互理解と相互協力を強固なものとした。祝賀式典と会議が成功裏に終わったことを受け、我々は全会一致で以下のとおり決議を行った：

1. 仏陀の成道と仏陀の実践的な教えが、これまでずっと人類に対してその生き方を変えるような深い影響を持ってきたということを認識して、私たちは八正道を实践しながら、仏陀の平和の教えを世界と分かち合うようたゆまず努力していく。
2. 世界の紛争が持つ多様な側面、社会が果たすべき役割、社会的責任の相互作用、そして経済的発展をよく意識して、我々は、世界の各国政府に世界で起きている様々な社会的政治的紛争を終わらせるために現実的・実際的になるように、そして赦しを推進していくように促す。世界の仏教徒たちは特に、赦し、非暴力、同情そして寛容についての仏教の教えを上手に応用して、世界中に平和と融和が広まっていくように努力する；また、人類の様々な価値を包み込む社会を打ち立てるため、限りのない欲望、憎悪、無知という人間の本性を克服するよう倦むことなく努力する。

3. 世界が直面している環境災害がこれまで経験したことのないほど増加していることをふまえ、私たちは人類と人類を取り巻く自然環境との間の相互依存性を今まで以上に強く意識するように人々に働きかけていく。
4. 社会において精神的、倫理的、認知的変革を推進していくために、我々は全ての仏教部派でこれまでずっと遵守され行われてきた瞑想の実践を推進していくことを奨励する。
5. 仏陀の生誕と成道2600年のお祝いと世界仏教センターの設立に対して表明された全会一致の支持を心に留めて、我々はマハチュラロンコーンラージャウィタヤライ大学およびタイ国仏教局も参加してアユタヤ県ワノイ郡のマハチュラロンコーンラージャウィタヤライ大学本校キャンパスで2012年6月1日に行われた円卓会議が成功したことを心より喜んでいる。我々は、仏教世界のための効果的なネットワークを作り上げるという目的のために世界仏教センターの設立というブッダモントンでの決定を実行する努力を行う。その目標に向かって世界仏教センターの定礎式を執り行ったことを、喜びをもって記録する。
6. 国連ウェーサクの日国際委員会(ICDV)との密接な結びつきを意識して、我々は、国際仏教大学連盟の第2回会議が学問的な熟考、討論、そして共同作業の過程を通して、仏教哲学および仏教実践という問題を探求し成功裏に会議を終えたことを喜ぶ。
7. 我々は国連ウェーサクの日国際委員会(ICDV)の主要なプロジェクトのうちの2つ: 共通仏典の編纂および仏典の統合カタログの作成に向けてさらに歩みを続け、また歩みを強化していく。
8. 私たちは、仏陀の生誕地であり世界遺産に登録されているルンビニにおける空気汚染の監視および軽減のための方策を決めるにあたって、ユネスコ(UNESCO)、ネパール政府、ビジネス界および仏教徒の非政府組織(NGO)の間で行われた協力関係を賛美する。

2012年(仏歴2555年)6月2日、第9回国連ウェーサクの日国際仏教会議の宣言として作成された。